大隅グリーンロード

大崎～鹿屋間が開通

平成9年度の着工から8年間の歳月をかけて整備されてきた、大隅中央区域農用地総合整備事業農業用道路（愛称・大隅グリーンロード）の開通式が、1月19日（水）、岡別府の大崎中央大橋で行われました。

この農業用道路は、鹿屋市、串良町、大崎町、有明町、志布志町を結んでおり、全長は21・5キロメートルあります。今後は農畜産物、飼料等の輸送や農作業の効率化が期待されています。

今回、開通したのは、大崎～鹿屋間の約15キロメートルで、有明～志布志間約6・5キロメートルのうち、5キロメートルは開通していますが、有明町地内の1・5キロメートルが工事中となっています。全面開通は、4月上旬の予定です。

開通式では、関係者によるテープカットとくす玉開披、車両パレードで一部完成を祝いました。

●平成の『水田ほ場整備計画』進行中！

▲大崎中央大橋から望む持留川両岸の計画地区

本町の水田地帯では、早期・普通期水稲等が作付けされていますが、大部分の水田が小区画で道路や用排水路が狭く未整備で、耕作者のみなさんが大変苦労されています。

土地改良事業の中では、このような水田地帯を大規模に整備し、農道や用排水路等の改良を行うことで、将来にわたる営農の効率化や生産性の向上を図る目的で『ほ場整備事業』の計画があります。

現在、平成18年度新規採択を目指し、田原川左岸長田地区（小能橋～飯隈橋間約40ヘクタール）と持留川両岸（持留橋～岡別府橋間約18ヘクタール）の水田について、ほ場整備計画を推進中です。

この事業は、受益者負担金や換地・配分等、多くの課題を解決しながら進めてまいりますが、地区受益者のみなさん方が「子どもや孫の時代にも耕作できるしっかりした水田を残そう」という強い気持ちをもって取り組んでいらっしゃいますので、事業実施後は見違えるような水田になることでしょう。

また、昨年12月には、それぞれの地区を流れる用水路を対象に、大崎・持留小学校の6年生の児童たちとともに、『生き物調査』を行い、水辺に生息するさまざまな魚や水生昆虫を捕まえ観察しました。参加した子ども達はメダカやドジョウ・トンボの幼虫といった都会では珍しいような生き物を自分の手にとって、大きさや数を調査し、自然環境の大切さと保全の必要性を感じていました。

これから、このような多様な生物の生育環境に配慮した事業実施方法等も含めて、ほ場整備計画を進めてまいります。

▲カニやメダカ，ドジョウなどたくさんの生物を観察する児童

▲水辺に生息する魚や水生昆虫を捕獲し大きさや数を調査